

第三展望所



第三展望所から芸北の山並み眺望

第一展望所 (頂上)
標高 743.5m



坂道注意



山頂より益田市内を眺望

自然観察路

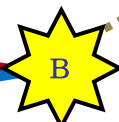


歌塚案内板

旧往還道

至匹見町

第二展望所
休憩用あずまや
歌塚



日晩峠標高
480m

ひぐらしやま じゃたき
日晩山・蛇滝 登山案内

馬の鞍

日晩山伝説

平安時代(901)菅原道真公が藤原時平の陰謀で無実の罪にとわれ九州に流されたときに備後から陸路を取り匹見街道から日晩峠に差しかけた際に日が暮れ始めたという事で、この峠を「日晩峠」と呼ぶようになり、山全体を日晩山と呼ぶようになったという伝説が残る。この峠道は昔から匹見(旧藩時代には匹見街道で広島県吉和村を経て廿日市町に達する広島街道であった)と真砂を結ぶ重要な街道として多くの人が利用し、峠にはお茶屋としての屋敷跡がある。また日晩峠には、菅原道真公が通る際に読まれた歌として「ひぐらしの山路をくらし小夜ふけて木の末毎に紅葉てらせる」歌塚の碑が建立されており、日晩山の麓にある波田天満宮の祭神は道真公である。

蛇滝伝説

宝暦3年(1753)の大洪水のおり濁流に乗って耳のある大蛇が出てきて難を逃れようと岸壁をよじ登った際に大蛇の鱗によってその跡がついたとされた。この岸壁近くにあった滝を蛇滝と称したという伝説がある。しかし長年に渡る風水害等により水路が変わり瀧の水が枯れてしまった。また58年の豪雨により大蛇の鱗跡とされた痕跡も剥落してしまい、地域の人々が愛した伝説や景観も今は無くなってしまった。しかし私たち真砂人はこの地を愛し多くの伝説を信じながら「蛇滝」の名称を伝承していきたいと思う。

波田地方開祖

凡そ千二百十余年前益田染羽地方の春日族の一人中岡兼宗が、神仏一体つづ供養して上波田に入植した。当時この地方は松杉の老樹が鬱蒼と生い茂る大森林地帯であった。現在の西光寺鐘楼の前あたりに居を構えたのが波田地方の草分けである。

波田天満宮由緒

往古日晩山の中腹天神の尾にあったが零落が甚だしいのを、神主氏子共に憂い、時の浜田藩主老中松平周防の守に願い出で由緒あるにより許され現在の八幡宮境内に末社として移した。当天満宮は石見地方では最も古く防府へお参りする代わりに波田天満宮にお参りする人も多かった。

猿田彦大神

ご神木は約1mの高さの石柱である。祀った時期は日晩山に歌塚を建立した頃、(明治39年頃)街道の道案内神として祀ったものと思われる。

もみじ谷

原川水系瀧群



蛇滝観音



蛇滝・大蛇鱗跡 伝承地

至美都町

蛇滝ふれあい広場
標高 275m



真砂地区振興センター (公民館)
標高 200m



日晩山案内板



波田八幡宮
波田天満宮

真砂小学校

全コース距離程

A~B	約 1650m
B~C	約 2300m
C~D	約 2500m
D~E	約 1000m



猿田彦大神

湧水